

# 函館中央病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先へお問い合わせ下さい。

①研究課題名	barbed suture による帝王切開癒痕症候群発生頻度についてのコホート研究			
②対象者	当院で妊娠 22 週以降に分娩が予定される妊婦の方			
③実施予定期間	当院倫理委員会承認日～西暦 2026 年 8 月			
④実施機関	函館中央病院			
⑤研究代表者	氏名	片岡 宙門	所属	社会福祉法人 函館厚生院 函館中央病院 産婦人科
⑥当院の研究代表者	氏名	片岡 宙門	所属	社会福祉法人 函館厚生院 函館中央病院 産婦人科
⑦使用する検体・データ	診療録情報			
⑧目的	近年帝王切開時の子宮筋層縫合部の癒合不全がまれではないことが報告されており、癒合不全と不正子宮出血、不妊、以後の妊娠での子宮破裂、癒着胎盤、帝王切開癒痕部妊娠などとの関連が示唆されている。しかし、子宮の切開をどの高さとするか、単結節縫合か連続縫合か、1 層縫合か 2 層縫合か、など切開法及び縫合法は多様で、子宮筋層縫合部の癒合不全を防止する最善の方法はいまだ得られていない。当科では筋層縫合部の癒合不全を予防し長期的予後をより良くするために単結節 2 層縫合が有効であることを報告しているが (1)、近年 barbed suture により縫合時間の短縮、追加の止血のための縫合の減少、術後イレウスの減少が報告されており、帝王切開癒痕症候群の予防効果も期待されている (2022Raischer)。そこで、帝王切開癒痕症候群発症予防効果の観点から、単結節 2 層縫合と barbed suture を比較検討すべく本研究を行うことを目的としています。			
⑨方法	有棘縫合系により縫合した子宮筋層切開創部の子宮内腔側に陥凹部が形成される頻度及びその程度と帝王切開癒痕症候群の発症頻度を調べ、従来から当科で施行している単結節 2 層縫合によるそれぞれの頻度・程度と比較検討することにより、有棘縫合系による子宮筋層切開創部縫合の有効性を評価します。			
⑩倫理審査	函館中央病院倫理委員会			
⑪公表	研究成果は学会や医学論文などに発表されることがあります。			
⑫プライバシー	本研究では、特定の個人を識別することができないものになっています。			
⑬試料・情報の保管及び廃棄	本研究で得られた情報は、研究終了後 5 年または研究結果発表後 3 年のいずれか遅い時期に廃棄します。			
⑭利益相反	本研究は企業との共同研究ではなく、企業からの資金提供もありません。			
⑮資料の参照	本研究について詳しく知りたい場合は、研究責任医師までご連絡ください。			
⑯問い合わせ	連絡先	社会福祉法人 函館厚生院 函館中央病院	電話	0138-52-1231 (代表)
	お問い合わせ内容をお伺いいたします。 後日、あらためて研究者より直接回答いたします。  【当院の相談窓口】 函館市本町 33 番 2 号 函館中央病院 産婦人科 片岡宙門 0138-52-1231 (代表)			

本研究のノウハウやアイデアに関する情報については公開できませんのでご了承下さい。